

リーディングDXスクール事業【実践事例】

札幌市立中央中学校（北海道）【指定校】

【取組内容】 個別最適な学びと協働的な学びをサポートする「学びの地図」の試行

中央中学校校内研修に係る学びの地図

「ICT活用」グループ
ICT活用G (G) 学びの軌跡シート

- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ

「個別最適な指導」グループ②
個別最適な指導G (G) 学びの軌跡シート

- 2024 校内研修ポートフォリオ
子 - 2024 校内研修ポートフォリオ
み - 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
2024 校内研修ポートフォリオ

「授業内容の工夫改善」グループ③
授業内容の工夫改善G (G) 学びの軌跡シート

- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ

「課題設定」グループ
課題設定G (G) 学びの軌跡シート

- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ

「授業内容の工夫改善」グループ①
授業内容の工夫改善G (G) 学びの軌跡シート

2024 校内研修ポートフォリオ
2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
2024 校内研修ポートフォリオ

「主体的に学習に取り組む態度」追
究」グループ
『主体的に学習に取り組む態度』追究G (G) 学びの軌跡シート

- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ

「個別最適な指導」グループ①
個別最適な指導G (G) 学びの軌跡シート

2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
2024 校内研修ポートフォリオ
24 校内研修ポートフォリオ
2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ

「授業内容の工夫改善」グループ②
授業内容の工夫改善G (G) 学びの軌跡シート

2024 校内研修ポートフォリオ
2024 校内研修ポートフォリオ
- 2024 校内研修ポートフォリオ
24 校内研修ポートフォリオ



このQRもしくは校
内研修クラスルーム
から、お互いの研究
の状況をご確認いた
だけます。

【説明】

左図は、本校の校内研究で活用している「学びの地図（教員版）」である。今年度から本校の校内研究は、個人研究となった。さらに、共通するテーマごとに小グループを編成し、個人（個別）とグループ（協働）を両立させて研究を進めている。その中で、各グループの活動状況と個人研究の推進状況がすぐに分かるようにした1枚のスライドを作成した。例えば、「ICT活用」グループの共同研究や個人研究を確認し、自分の研究の参考にしたい場合などは、対象をクリックすればリンク先に移動するようになっており、すぐに閲覧できるという仕組みである。

教師で実践した結果、「各教科の授業において、生徒に対してもこの方法が活用できるのではないか」という意見が多かった。

【期待される効果】

- ★個別探究している生徒が、スライドを利用することで、他者の考えや意見を参考にさらに探究を深めることが可能になる。
- ★グループで協働的に1枚のシートで進めることができる。また、他のグループの考えを参考にすることもできる。
- ★授業者は、個別探究している生徒や、協働的に学びを進めている生徒の進捗状況を、リアルタイムで把握することができ、適宜・適切な支援をすることが可能になる。
- ★研究授業の時など、参会者にも提示することで、これまでの生徒の学びの履歴や、現在の進捗状況を把握することができ、幅広くかつ詳しい授業観察が可能になる。

以上のことから、次年度以降に各教科の授業で実践研究を進めていく予定である。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

札幌市立中央中学校（北海道）【指定校】

【取組内容】 情報活用能力育成指標に係る継続的な取組

情報活用能力育成指標（実施一覧表）

シート「各学年」

中央小・中 小中一貫した情報活用能力の育成・指導の一覧表

学年	指導	生徒の学習内容・活動内容	育成指標	達成状況	備考
5	1	基本的な操作（文字入力、図の挿入など）を行う	育成指標 1-1	達成	
5	2	文字の大きさや色を変更する	育成指標 1-2	達成	
5	3	アニメーションを用いて発表する	育成指標 1-3	達成	
5	4	聞き手が情報を読み取りやすいようにスライドを作成する	育成指標 1-4	達成	
5	5	友達と共同編集をしながらスライドを作成する	育成指標 1-5	達成	
5	6	フォームやスプレッドシートの情報を活用し、効果的にスライドを作成する	育成指標 1-6	達成	
6	1	基本的な操作（文字入力、図の挿入など）を行う	育成指標 2-1	達成	
6	2	文字の大きさや色を変更する	育成指標 2-2	達成	
6	3	アニメーションを用いて発表する	育成指標 2-3	達成	
6	4	聞き手が情報を読み取りやすいようにスライドを作成する	育成指標 2-4	達成	
6	5	友達と共同編集をしながらスライドを作成する	育成指標 2-5	達成	
6	6	フォームやスプレッドシートの情報を活用し、効果的にスライドを作成する	育成指標 2-6	達成	
7	1	基本的な操作（文字入力、図の挿入など）を行う	育成指標 3-1	達成	
7	2	文字の大きさや色を変更する	育成指標 3-2	達成	
7	3	アニメーションを用いて発表する	育成指標 3-3	達成	
7	4	聞き手が情報を読み取りやすいようにスライドを作成する	育成指標 3-4	達成	
7	5	友達と共同編集をしながらスライドを作成する	育成指標 3-5	達成	
7	6	フォームやスプレッドシートの情報を活用し、効果的にスライドを作成する	育成指標 3-6	達成	

情報活用能力の各項目で、実施したものを記録していく
→**該当学年での指導**に役立つ

GIGAアカウントからどうぞ



情報活用能力育成指標（実施一覧表）

シート「各学年」

学習内容・活動内容

学年	指導	育成指標	達成状況	備考
5	1	基本的な操作（文字入力、図の挿入など）を行う	達成	
5	2	文字の大きさや色を変更する	達成	
5	3	アニメーションを用いて発表する	達成	
5	4	聞き手が情報を読み取りやすいようにスライドを作成する	達成	
5	5	友達と共同編集をしながらスライドを作成する	達成	
5	6	フォームやスプレッドシートの情報を活用し、効果的にスライドを作成する	達成	

- ① 生徒の習熟度がわかる→指導計画が立てやすい
- ② 生徒個人にコピーを配付しても効果的

情報活用能力育成指標（実施一覧表）

シート「今年度の実績」

育成指標	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	11年生	12年生	合計	達成率
育成指標 1-1	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 1-2	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 1-3	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 1-4	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 1-5	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 1-6	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 2-1	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 2-2	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 2-3	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 2-4	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 2-5	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 2-6	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 3-1	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 3-2	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 3-3	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 3-4	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 3-5	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
育成指標 3-6	100	100	100	100	100	100	100	100	700	100%
合計	700	700	700	700	700	700	700	700	5600	48%

次年度目標（育成指標）

その年度の実績を割合で表示

→今年度の実施一覧表が次年度の**育成の指標**となる

情報活用能力育成指標の活用【継続実践】

昨年度より、パートナー校である小学校と協働で9年間で児童生徒に身に付けさせたい「情報活用能力育成指標」を作成し、定期的に児童生徒がセルフチェックを行っている。中学校では、各教科の授業の際に授業者が状況を把握することで、効果的なICTの活用が可能になることや、他教科の取組状況を確認できることにより、教師の中に教科横断的な視点が養われてきた。また、内容項目の見直し、新たに項目を設定したり、項目の内容を細分化したりと、1年間の実践を経て、ようやく生徒も教師も慣れてきたところである。今後も継続しながら実践を重ねていきたい。

また、令和7年1月に札幌市学校教育情報化推進方針が新たに策定され、その中で札幌市立学校情報活用能力体系表例が示されたことを受け、内容を精査しながら、全市的に活用できる育成指標を目指していきたい。

あわせて、昨年同様に、新入生（複数の小学校から入学）の情報活用能力実態把握と、今後の授業でGoogleスライドを生徒全員が使用できること、自身のことを仲間を紹介し、自他の個性を理解し尊重できることをねらい、本活動を実施している。生徒は、自分の得意なことや興味のあること、GIGA端末でできることを仲間を紹介した。

成果としては、教師が生徒の情報活用能力の実態を把握できたこと、Googleスライドを各教科共通で生徒が使用できるようになったこと、入学当初の仲間づくりや学級づくりの一助となったことが挙げられる。また、授業の協働的な学びの場面や、各種行事の準備などで、各自のGIGA端末でできることを生かしながら活動する姿が見られたことも大きな成果である。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

札幌市立中央中学校（北海道）【指定校】

【取組内容】 クラスルームでロケーションフリーに連絡事項を共有

(従来) 職員室の学年ホワイトボードに連絡をまとめていた

先生方に連絡事項等が伝わりにくいなあ。なにか良い方法はないかなあ。

学年教師クラスルームの一例

T

teacher

8:49 (最終編集: 11:18)

12月23日(月) 2学期をよい形で終わられるような3日間にしていきましょう!

【生徒】

朝) 休み時間の廊下でも、ルールやマナーを意識させて3日間を終えられるように声掛けをしていきましょう。

朝) 学級代表から6時間目の学年集会について連絡があります。詳しくは別紙のpdfを確認してください。

6時間目) 学年集会です。整列や時間について、生徒たちが自ら声掛けできるようにフォローしましょう。

帰り) 終業式まで残り2日なので、教材保管BOXの中のものを持ち帰りましょう。

【先生方】

・明後日の終業式の動きについて、プリントを用意しました。流れを確認しておいてください。

・学期末の清掃強化週間で教室、廊下などがキレイになっています! 日頃から環境美化に努めさせるような風土を生徒にも感じさせていきたいですね。

・インフル、風邪などが流行しています。先生方も十分注意を!

【短学活での生徒への連絡事項】

担任はこの情報を確認し、生徒に伝達

→クラスルームなら教員用端末で教室でも確認できる!

(校務支援システムだと職員室でしか確認できない)

【先生方への連絡】

大人の動き、その他を伝達

【コメントに誰でも入力可能】

- ・全体の朝打ち合わせの内容伝達
(副担任の先生への情報共有)
- ・他の先生からの追加連絡
(外出の予定、委員会活動等について)

< クラスのコメント



teacher1

朝、2時間年休です。○組の朝学活は△△先生にお願いしてあります。



teacher2

昼休み、学習係は多目的室に集まるように担任から連絡してください。



teacher3

全体朝打ち)

- ・○○の提出が本日までです。教頭先生にメッセージで添付してください。
- ・下校時、大雪になることが予想されます。帰り学活で担任から注意喚起をお願いします。

(現在) 学年教師クラスルームに連絡事項を入力しておくことで、
教員が誰でも、いつでも、どこでも情報を発信、確認することができる!

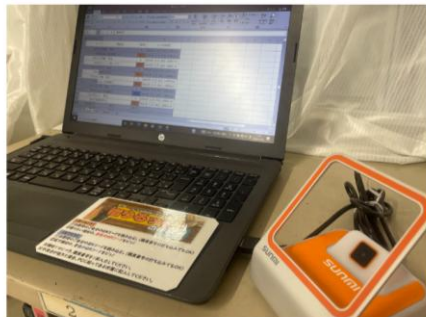
リーディングDXスクール事業【実践事例】

札幌市立中央中学校（北海道）【指定校】

【取組内容】 借りるツピ!!（物品貸出管理システム）～二次元コードリーダーを用いて、貸出や返却をエクセルで一括管理!～

（従来）紙ファイルへの記入が手間、紛失時にICT係が管理簿を遡って探すのが非効率的
 （現在）貸出、返却ともに、**二次元コードをかざすだけ!**
 物品の紛失時にはエクセルの検索機能で**簡単に借用者がわかる!**

①職員室内にPCと
二次元コードリーダーを設置



②借用者は出勤用二次元コード（職員番号）と貸出物品に
貼ってある二次元コードをリーダーにかざす



赤が貸出用
青が返却用

【管理物品】

- ・教員用PC
- ・ポケットWi-Fi
- ・type-c変換器
- ・レーザーポインター など

【管理画面（エクセル）】

	A	B	C	D
1	コード	物品名	状況	ビッの時間
2	300000	教職員 1		2024年 7月 26日 08時24分
3	A030	ポケットWi-Fi 4	貸出	2024年 7月 26日 08時25分
4	300000	教職員 1		2024年 7月 26日 08時25分
5	B030	ポケットWi-Fi 4	返却	2024年 7月 26日 08時25分
6	300000	教職員 1		2024年 7月 26日 08時25分
7	A034	ポケットWi-Fi 8	貸出	2024年 7月 26日 08時25分
8	300001	教職員 2		2024年 7月 26日 08時25分
9	A036	ポケットWi-Fi 10	貸出	2024年 7月 26日 08時25分

出勤に使用する
二次元コードをかざすと
氏名も自動入力

二次元コードリーダーを使用した
時間が自動入力（マクロ）

紛失時は検索機能で
借用者や貸出日が
すぐにわかる!

1	コード	物品名	貸借	D	E
28	A027	ポケットWi-Fi 1	貸出	1	TRUE
29	A028	ポケットWi-Fi 2	貸出	0	FALSE
30	A029	ポケットWi-Fi 3	貸出	4	FALSE
31	A030	ポケットWi-Fi 4	貸出	2	FALSE
32	A031	ポケットWi-Fi 5	貸出	1	TRUE

貸出中の物品は「TRUE」
返却済みの物品は「FALSE」

どの学校でもちょっとした困りごとの中に、必ずランクインすることとして、「使いたいときに限って、物品が行方不明」が上がると思います。本校も例外ではなく、常にだれかが「〇〇持っている方or使用中の方いますか〜?」と職員室で聞いていました。

管理簿や貸出簿もありましたが、紙ベースのため、記入したり、しなかったり…。そこで、二次元コードを活用して、物品の一斉管理を行うことにしました。

このシステムは、「かざすだけ」なので、教職員が新たに何かを覚える必要もありません。おかげで導入からスムーズに進めていくことができました。

「方法が簡単である」ということが、新しいことを始めるときに本当に重要なことであると実感しました。

このシステムを今後様々な教育的場面で応用していくために、教職員間でアイデアを出し合って検討しています。

※詳しい資料は、右記の
二次元コードから本校
HPでご確認ください。
※「トップページ」の
「GIGAスクール～ICT
活用実践～教科以外編」
に掲載しています。

